

## 【科目シラバス案】単位

科目名： フィールドワークの考え方と基本技術（地域社会で学ぶための基本作法：初級）

英文科目名： Understanding of Field Work

単位認定者： 清剛治,博士(学術), 金沢大学大学教育開発・支援センター

ゲストスピーカー：金沢大学名誉教授 鹿野勝彦（文化人類学）

石川県立自然史資料館 館長 水野昭憲,博士(社会環境学)

単位数： 2 単位

定数： 20～50 名程度

開講期間： 月 日～ 講義時間： 水曜日 17:30 ～ 19:30

開講場所： しいのき迎賓館セミナールームA もしくは、B, 四高記念資料館

成績評価： 出席、各回の小レポートと文献等のデータ整理、ロールプレイ等の際の提出物による総合評価

### ■学生の学習目標

・資料収集や観察の手法等、フィールドワークの前提となる、諸基本技法を習得している状態を目指す。

### ■本講義の内容：

本科目は、地域課題解決人材養成の前提として、現場（フィールド）の状況を的確に判断する力を付けるうえで必須の現地調査（フィールドワーク）の考え方と基本技術を身につけることを目標としている。フィールドワークについて基礎的な知識を持たない学生を主な対象とし、それらの学生が受講後、地域社会でフィールドにて諸活動を実践することを想定している。

フィールドワークとは「現地調査」「野外調査」等を意味する調査の一手法である。特に人間社会を対象とするフィールドワークは、研究対象となる地域や社会に赴き、その土地に暮らす人々と空間を共にしながら、生活や社会の仕組み、その地域ならではの思考枠組みを理解しようとするものである。本科目では、その地域の自然や人々の社会・文化を観察するとともに、そこに暮らす人々から詳細な話を聞き（インタビュー調査）、同じ経験（参与観察）をし、異文化をもつ人々の社会理解する術を、まず座学レベルで理解することとしたい。なお、データ分析については質的データ（エスノグラフィー、内容分析等）を中心に扱い、量的データ（統計・解析法）については、数値の持つ意味合い等についてはそれを批判的に利用する法を考えることとしたい。

### ■スケジュール

#### ○導入講義

1. 全体ガイダンス： フィールドワークという方法の特徴（鹿野・清剛治）
2. 準備作業としての文献、ネットデータ等の資料収集、整理と分析①（清剛治）
3. 準備作業としての文献、ネットデータ等の資料収集、整理と分析②（清剛治）

#### ○フィールドでの資料収集、データ整理と分析の技法

4. ラポール構築（鹿野・清剛治）
  5. 聞き取りを中心に、映像、音声①（鹿野・清剛治）
  6. 観察を中心に、映像、音声②（水野・清剛治）
  7. フィールドノート、カードまとめ（鹿野・清剛治）
  8. ロールプレイ①（清剛治）
  9. ロールプレイ②（清剛治）
  10. 情報管理、倫理、リスクマネジメント（鹿野・清剛治）
  11. フィールドワークの実践例（石川での自然と社会 減反政策と拡大造林）（水野・清剛治）
  12. フィールドワークの経験（里山にでむいての学習）（水野・清剛治）
  13. 〃
  14. 海外におけるフィールドワーク（異文化の中でのフィールドワーク）②（鹿野・清剛治）
  15. 総括（鹿野・清剛治）
  16. レポート・評価
- 土曜日午前中に実施

【科目シラバス案】単位

科目名 : 地域社会コミュニケーション演習 (地域社会で学ぶための基本作法: 中級)

英文科目名 : Communication training in the community

単位認定者: 西村 貴之 金沢大学 大学教育開発・支援センター 特任助教

単位数 : 2 単位

定数 : 20 名

開講期間 : 10月3日(金)~12月26日(金) 講義時間 金曜日 19:10~20:40

教室での授業 11回、フィールドワーク(現地調査) 3回 ※土曜日実施(日帰り)を想定。

及び「地域課題研究ゼミナール」、「地域貢献型学生プロジェクト」報告会への参加

開講場所 : しいのき迎賓館セミナールームA、フィールドワーク先

成績評価 : 出席、学習意欲・態度、レポート、最終プレゼンテーション

■学生の学習目標

- ・フィールドワークの考え方と基本技術(地域社会で学ぶための基本作法: 初級)で習得した諸基本技法の実践による定着を図る。また、地域社会の中で求められるコミュニケーション能力の向上を目指す。

■授業の内容

本科目は、フィールドワークの考え方と基本技術(地域社会で学ぶための基本: 初級)の実践編(中級)として位置づけており、フィールドワーク(現地調査)の実践を通じて習得した基本技法の定着を図ることを目標としている。フィールドワークに関しては、同じ地域を複数回訪問して内容をまとめ、最終的には何かしらの提案を地域住民に対してプレゼンテーションする。また、これらプロセスの中で地域社会の中で学ぶ際、あるいは将来社会に出て働く際に求められるコミュニケーション能力の向上を目指す。そのため、講義はワークショップやグループワークに加え、フィールドワークを実際に行うなどアクティブラーニング中心に実施する。

参加者は初級を受講していることが望ましいが、他の科目等で同等の能力を習得している、あるいは参加に強い意欲がある場合は受講可能とする。

また、本科目受講後も継続的に、地域社会と連携した各種プログラムへ参画し、貢献できる人材の育成を目につなげていきたいと考えている。

■スケジュール

1. ガイダンス: 授業概要の確認、グループワーク演習
2. 地域で学ぶための基本作法: 初級のレビューとふりかえりワークショップ : ゲストスピーカー2名
3. ワークショップ①「自分を知る・他者を知る①」
4. ワークショップ②「自分を知る・他者を知る②」
5. ゲストスピーカーによる講義とグループディスカッション: 地域関係者2名
6. フィールドワーク事前確認 マナー研修、調査内容確認: ゲストスピーカー1名
7. フィールドワーク① 地域での聞き取り、観察
8. フィールドワーク事後ワークショップ①(内容ふりかえりと整理)
9. フィールドワーク事後ワークショップ②(何かしらの提案に向けた準備、第2回聞き取り内容準備)
10. フィールドワーク② 地域での聞き取り、観察
11. フィールドワーク事後ワークショップ①(提案に向けた準備)
12. フィールドワーク事後ワークショップ②(提案に向けた準備)
13. フィールドワーク③ 現地での実施内容報告プレゼンテーション
14. 他事例の調査「地域課題研究ゼミナール」、「地域貢献型学生プロジェクト」報告会へ参加
15. 最終統括 まとめ + 学生プレゼン「自分自身の将来の目的について」